No.8

連携室だより

第8号

2007.12

目　次

●－診療連携－　院長挨拶　－ 昨今の医療連携について　－ …… 2

●－職場紹介－　「生理検査室」のご紹介 …… 3

●－新入職員紹介－…… 4

●－お知らせ－　人事異動…… 5

●－医療施設訪問のお礼とお願い－…… 6

鹿児島市医師会病院

診療連携

院 長 挨 拶

ー 昨今の医療連携について ー

鹿児島市医師会病院
院長　山口　淳正

皆様お元気でいらっしゃいますか。当院も医療連携室を立ち上げまして早４年経過し、連携室だよりもこの号で第８号を数えるようになりました。この間、会員の皆様にはいろいろ御世話になり連携室を御利用戴いたものと拝察いたしております。この紙面を借りましてお礼を申し上げたいと思います。

さて近年、国の政策に医療連携という言葉が散見されるようです。事実2008年の医療計画の中に４疾病５事業（４疾病とは癌、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病で５事業とは救急、災害、僻地、周産期、小児医療）の論議があり、これらの事項にそれぞれ地域連携体制を組むように政策上盛り込まれる可能性があります。これはとりもなおさず限られた医療資源の有効利用により、年々増加する医療費を押さえ込むことにあるようです。

そこで、医療連携の本来の姿は一体如何なるものか考えてみたいと思います。患者さんのやり取りが医療連携ではないはずです。患者さんを中心にして種々の医療機関がその持てる特徴と役割を十二分に果たすことで、同じような医療行為を極力避け、医療資源の有効利用を図ることではないでしょうか。例えて申しますと、ある患者さんがおられるとします。日ごろはかかりつけ医を持っておられ、その患者さんは元来、一見健康そうに過ごしておられたとします。ある日突然、脳血管障害で倒れられた。患者さんはかかりつけの所と連絡をとられ初期治療をされた。ついで、二次医療機関で専門的治療と急性期リハビリをされ、病態が落ち着いたところで亜急性期のリハビリ中心の医療機関に転院され、疾患の最終手段として慢性期医療機関で慢性期リハビリを行う。そこで、帰宅できれば元のかかりつけ医に帰られ、かねての生活指導と外来薬物治療を受ける。もし、年月と共に寝たきり状態になられたら、しかるべき施設で面倒を看てもらうか、場合によっては在宅療法を受けるかになります。この在宅療法を施される医療機関とかかりつけ医が同一であれば、そのままその医師の加療を受ければ良いし、もし在宅医療をされなければ在宅医療を積極的に施行される医師をかかりつけ医として、今後の医療をお任せすればよいわけです。寝たきり状態の時期でも合併症で急性期医療機関に転送せざるを得ない事態に陥ることもありましょうが、その際はしかるべき急性期医療機関において最短で効果的な治療を行い、かかりつけ医に帰るシステムが望ましいと思います。そこで問題となるのが、患者さん側の医療に対する不信がなせる業なのか、他医への移動を喜ばないケースが見られ、このようなシステムに乗っていただけない例が多いと言う事です。それは医師と患者さんとの繋がりの関係であろうと思われます。どの医師にバトンタッチされようと均一で最良の療養環境と技術、看護技術が提供されれば患者さんも納得されるのではないでしょうか。それには第一に医師同士がお互い気心が知れてface to faceでの付き合いがあることが必須条件のような気がします。医師会という組織はその役割を果たすのに最良の組織だと思います。是非、医師会の幹部の方はこの方面にも力をいれてほしいと思います。ただ、勤務医がこの面では立ち遅れているような気がしてなりません。勤務医が医師会活動、なかんずくお互いの顔の見える方向での活動に積極的に参加してもらいたいと思います。又、コ・メディカルの医療技術の均一化も必要です。

しかしながら、現在の連携は患者さんを中心に回っているのではなく、医療機関の都合で患者さんが連携という名の下に動かされており、医療機関ごとに異なったやり方で医療が施されているのが現状ではないかと思われる事例も散見されます。前述したように、医師同士がひとりひとりの患者さんの情報を共有し、各々の持分の業務をこなせば立派な医療連携が成立するはずです。それを解決するには連携パスを作成し、如何なる医療機関にいっても同じ医療と看護が受けられるシステムを構築せねばなりません。これが近年国の推進している連携パス作成とその有効利用ではないでしょうか。現在、大腿骨頚部骨折には連携パスを利用することによる点数配分が既に設定してあります。来年度の改訂では脳血管障害の連携パスが策定され点数化されるやに聞いております。これら以外にも多くの疾患で連携パスの策定とその有効利用が図られることを期待したいと思います。

ただし穿った見方をすると、医療連携を通じて医療機関の選別化が始まろうとしているのかもしれません。

職場紹介

「生理検査室」のご紹介

臨床検査技師
室長　米満　幸一郎

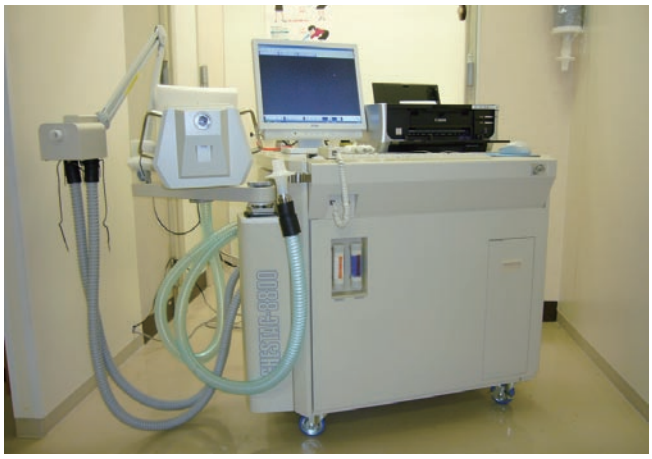
生理検査室のスタッフは臨床検査技師８名と受付助手２名、計10名です。検査項目は循環器に関する検査としては心電図、負荷心電図、トレッドミル、ホルター心電図、ABI（血圧脈波）、心エコー、経食道心エコー、下肢血管エコー、心臓カテーテル時に圧波形などポリコーダーをしております。

呼吸器に関する検査としては通常の肺活量、フローボリュームカーブの他 FRC、DLCO、BMR を測定しております。

神経・筋に関する検査として脳波、重心動揺、筋電図（ABR、SEP、VEP、神経伝導速度、針筋電図）、サーモグラフィー、頚動脈エコーをしております。

人間ドックの生理検査は心電図、肺機能、腹部エコー、聴力、無散瞳眼底、眼圧をしております。

検査体制は絶食を要する腹部エコー、経食道心エコーが予約制となっており、その他の検査は当日に検査するようにしています。急を要さない検査以外は午前中は外来患者を優先して、外来患者の少ない午後に入院患者の検査をするようにしています。時間外の緊急検査はオンコール体制で対応しており、30分以内に病院へ着くように敏速に対応しています。



肺機能検査装置

心エコー装置

当検査室は特に腹部エコー検査、心エコー検査、トレッドミル検査の件数が多く行われています。

診療の腹部エコー検査は消化器内科部長の内園先生をはじめ数名の消化器内科医師で月～土曜日まで毎日午前中を中心に、３台のエコー装置を用いて行っています。多い時は20名前後の検査をしております。また技師がビデオに録画した人間ドックの腹部エコーも消化器内科医師が判読されています。時間外の救急患者などの腹部エコーも消化器内科オンコール医師が行っています。

心エコー検査、トレッドミル検査は医師と技師により検査をしています。特に月・木の循環器外来日にはそれぞれ20名前後の患者が来られます。心エコー検査とトレッドミル検査のセットで検査される患者も多く、検査の所要時間が長くなります。心エコー装置３台とトレッドミル装置２台で対応していますが、後半に検査受付された患者さんは待ち時間が長くなってしまいます。

患者サービス向上の観点からも患者さんの検査待ち時間の短縮に努めなければなりません。当検査室では数年前から年間目標として『検査待ち時間の短縮に常時努める』を掲げ、スタッフ一同知恵をしぼり、検査の質を落とさないように敏速に対応するように努力していますので、ご理解の程よろしくお願い致します。

新入職員（新任医師）紹介

放射線科医長

＜プロフィール＞

（H 19. 9. 1～）

名　　前　熊谷（くまがえ）　雄一（ゆういち）

出 身 県　鹿児島県

出身大学　鹿児島大学（平成14年卒）

前勤務先　県立大島病院

趣　　味　サッカー　スポーツ観戦

慣れないことが多く、先生方には御迷惑をおかけすることも多いと思いますが、精一杯がんばりますのでよろしくお願いいたします。

消化器内科医師

＜プロフィール＞

（H 19.10. 1～）

名　　前　香月（かつき）　稔史（としふみ）

出 身 県　鹿児島県

出身大学　金沢医科大学（平成13年卒）

前勤務先　鹿児島厚生連病院

趣　　味　スキー

よろしくお願いします。

外科医師

＜プロフィール＞

（H 19.10. 1～）

名　　前　吉川（よしかわ）　弘太（こうた）

出 身 県　鹿児島県

出身大学　鳥取大学（平成15年卒）

前勤務先　鹿児島大学病院

趣　　味　旅行

２年半ぶりにお世話になることになりました。
よろしくお願いします。

外科医師

＜プロフィール＞

（H 19. 8. 1～）

名　　前　川津（かわづ）　祥和（よしかず）

出 身 県　大分県

出身大学　鹿児島大学（平成16年卒）

前勤務先　鹿児島医療センター

趣　　味　ラグビー

御指導・御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

神経内科医師

＜プロフィール＞

（H 19.10. 1～）

名　　前　森山（もりやま）　宏遠（ひろとう）

出 身 県　熊本県

出身大学　鹿児島大学
（平成16年卒）

前勤務先　県立大島病院

趣　　味　ドライブ

半年間の予定ですがよろしくお願いします。

循環器内科医師

＜プロフィール＞

（H 19.10. 1～）

名　　前　宮永（みやなが）　直（すなお）

出 身 県　鹿児島県

出身大学　愛知医科大学
（平成17年卒）

前勤務先　鹿児島大学病院

趣　　味　映画鑑賞

最近生まれた長男の世話も含めて、公私にわたりてんてこまいです。よろしくお願いします。

小児科医師

＜プロフィール＞

（H 19.10. 1～）

名　　前　森田（もりた）　康子（やすこ）

出 身 県　鹿児島県

出身大学　川崎医科大学
（平成17年卒）

前勤務先　鹿児島大学病院

趣　　味　音楽鑑賞

がんばります。
みなさん、宜しくおねがいします。

【基本理念】

患者様の意思と権利を尊重し、会員や地域の医療ニーズに応え、安全で質の高い誠実な医療を提供します。

【基本方針】

1）医療を通じて地域社会への貢献
2）救急医療の推進
3）専門性を追求した高度医療の実践と連携の強化
4）予防医学と医療人教育

お知らせ

人事異動

医療連携室
室長　岩城　憲司

かねてから、医師会病院の運営について種々ご支援・ご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

医療連携室は平成15年10月に発足し、主に患者様の事前診療録の作成や入退院連絡･経過連絡書の送付等を行っております。

私は、本年10月１日の定期異動で医療支援部医療連携室の配属になり、早２ヶ月が経ちました。一生懸命頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

ー 医療施設訪問のお礼とお願い ー

平成17年７月より今年の１月までの永きにわたり、先生方の医療施設を訪問させて頂き、誠に有難うございました。医療連携室が発足してからの大きな仕事の一つとして我々も全力を傾注して行ないました。この訪問で色々な情報が得られ、また色々な御指摘を頂き、実に実り多かった仕事でありました。なかでも顔と顔の見える関係をより一層強く結びつけることが出来たことは大きな収穫でした。来年も医療施設訪問は行いたいと思っています。今後も御指導、御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

運営管理センター長　有村敏明

鹿児島市医師会病院　連携室だより　No. 8
創刊日：平成17年８月10日
発行日：平成19年12月10日　（年３回　４・８・12月発行）
発行者：〒890－0064　鹿児島市鴨池新町７番１号
鹿児島市医師会病院　院長　山口　淳正
担　当：医療支援部　医療連携室
ＴＥＬ：099－254－1125（代表）
ＴＥＬ：099－254－1121（連携室直通）
ＦＡＸ：099－254－1308（連携室直通）
ホームページ：http://www.minc.ne.jp/kasiihp/
ご意見などございましたら、お気軽にご連絡ください。